



白バラ牛乳
大山乳業農業協同組合

酪農だより

あなたへ贈る「白の一滴、心の一滴」ー酪農家の心を食卓へー



今月の特集

大山乳業農協のあゆみ 組合創立編

現場潜入

創立75周年の取り組み紹介

各種活動レポート

指導課通信

大山乳業農協からのお知らせ

おかげさまで

75th
Anniversary
since 1946

創立75周年記念特集

大山乳業農協の あゆみ 組合創立編

今から75年前の夏の日、大山乳業農協の前身となる任意組合「伯耆酪農組合」が誕生しました。

戦後の混乱期の中、激動の時代を切り拓いてきた先人が、この地で出会い、夢を語り、決断し歩んだ当時のようすを「組合創立」「生産」「製造」「販売」の4つのキーワードで振り返ります。今月は組合創立編と題し大山乳業農協の創立のあゆみ紹介します。



昭和天皇、皇后両陛下御行啓(昭和40年5月)

組合創立は酪農民の団結と 自主独立の決意の歴史

昭和21年に任意組合「伯耆酪農組合」の誕生から始まる大山乳業農協創立の歴史は、酪農生産者の利益を守る歴史でもありました。

創立25年を迎えた際、初代組合長の桑本太喜蔵氏は「組合25年の歴史は受難と苦勞が刻まれており、酪農民の団結と自主独立の決意の歴史である」と言葉を寄せておられます。時に「いばらの道」とも例えられたその歴史の中で、伯耆酪農組合の創立は鳥取県の酪農の未来を変える歴史の始まりとなりました。

大手メーカーからの独立と 伯耆酪農組合の発足

組合創立50周年の際に発行された記念誌によると、この地で乳牛の飼育が始まったのは昭和14年頃。当時、生乳は県西部にあった大手メーカーの工場か東伯町（現琴浦町）にあった日本農産化学研究所に出荷していました。

現在の大山乳業農協は、鳥取県内の酪農家による1県1生産組織、1処理工場という全国的にもユニークな存在になりましたが、当時この地域で生乳の出荷先だった日本農産化学研究所では、農家に牛を飼育させ、



創立5周年記念に撮影した当時の
伯耆酪農役職員（昭和26年）

生乳を受け取る「牛小作」制で生乳を集めていました。しかし、敗戦後の食糧難の中で、農家が牛乳を一部近所の人に分け与えたため、農産化学研究所との関係が悪化。同じ頃、中部地区への進出を図っていた大手

メーカーが好条件を出したため、ほとんどの酪農民が大手メーカーの傘下に入りしました。しかし、好条件に喜んだのもつかの間、ほとんどの酪農民が傘下に入り、競争相手がなくなったメーカー側は獣医師を派遣しなくなりました。乳価を下げただけでなく、送乳距離が遠くなり、二等乳も多発するなど、弱い立場を痛感したと言います。

この出来事をきっかけに、昭和21年7月、大山乳業農協初代組合長の桑本太喜蔵氏を中心に、八橋、下郷、由良、赤碓、安田の5町村の同志32名が発起人となり、『農民自らが出資し、牛乳の生産、処理、加工及び販売の一貫体制を築き、組合員の利益養護を図る』ことを基本理念にした任意組合

「伯耆酪農組合」が設立されました。その後、組合員数も2000人近くになり、集乳量も増加してきたため組織の設備拡充のために農協法人に衣替えることとなり、昭和25年9月に「伯耆酪農農業協同組合」として再スタートすることになります。

酪農3法の成立と 大山乳業農業協同組合の誕生

昭和31年11月、伯耆酪農農業協同組合は米子市牛乳生産販売農業協同組合と合併し、翌32年2月には倉吉市の中央酪農農業協同組合と合併します。

昭和40年、「加工原料乳生産者補給等暫定措置法」「酪農振興法および土地改良法の一部を改正する法」「農地機械開発公団法の一部を改正する法」のいわゆる『酪農3法』が成立しました。こうした動きの中で、伯耆酪農と美保酪農、東部酪農の3組合は合併に合意し、昭和41年3月に「大山乳業農業協同組合」が誕生します。初代組合長には桑本太喜蔵氏が就任し、当時の組合員数は、2600人。生乳生産量は17000トンで、県内のシェアで見ると、組合員数で53%、乳量は63%を占めるまでになっていました。



■大山乳業農協の変遷



県内唯一の酪農生産者団体へ

大山乳業農協は発足と時を同じくして、鳥取県の指定生乳生産者団体に指定され、事業区域は県下全域となりました。また、平成13年4月より中国地方一円を区域とする広域指定団体制度となり、その設立会員になっています。

その後も県内の生産組織と合併を行い平成15年4月に県中部の生産者10余名が加入し、県内の酪農生産者が全員組合員となり大山乳業農協は鳥取県内唯一の酪農生産者団体となりました。

そして大山乳業農協は今年7月に創立75周年を迎えました。

今回多くの資料を紐解くなかで、苦難を強い信念で突破してきた歴史があったからこそ、今も多くの方に親しまれる存在になっているのではないかと感じました。

今、私達の生活を取り巻く環境は日々変化しています。その中で変わらぬ「想い」を持ち続け挑戦することと、また一つ歴史が刻まれることと信じ、年月を重ねて行きたいと感じました。



当時のようす（昭和26年）



伯耆酪農事務所外観（昭和25年）

おかげさまで

75th
Anniversary

since 1946

取り組み紹介

PR編

白バラ牛乳1000mlパックで
創立75周年の感謝を伝えます！

いよいよ創立記念日を迎える大山
乳業農協ですが、続々と創立記念をP
Rする商品やイベントが始まってい
ます。

大山乳業農協の直売所「カウイーの
みるく館」に立ち寄るとズラリと並ん
だ大山乳業農協の看板商品「白バラ牛
乳」よく見るとなんだかいつもとデ
ザインが違うようなと思われた方は
おられますか？

実は、現在出荷されている「白バラ
牛乳」は1000mlパックの正面
に記念ロゴを配置した限定デザ
インです。また、同じパッケー
ジ側面の広報欄でもお客様
へ感謝の言葉と共に創
立75周年をPRしてい
ます。

その他にも、白バラコーヒー1000
0mlのパッケージにも創立75周年を
知らせるロゴが入る予定となってお
り、記念商品だけでなく、既存の商品
でも創立記念日を盛り上げて行きま
すので、店頭で見かけられたり、手に
取っていただいた際には是非ご覧く
ださい。

創立記念日にあわせ直売所でも
イベントを開催中

大山乳業農協の直売所「カウイーの
みるく館」では創立記念日に
あわせ7月21日より「創立
75周年ありがとうフェア」
を開催中です。

店内には大山乳業農協の
これまでの歴史を振り返る店内ディ
スプレイなどでご来店頂いたお客様

にも懐かしさを感じて頂けるような
空間作りを行っています。
また、期間限定で買い得なセッ
トなども販売致しますので、ご来店く
ださい。
次回は今回に引き続き総合企画課
よりPR編をご紹介します。
皆さんも一緒に創立75周年を楽し
みましょう！

今後は白バラ
コーヒーの広報
欄にも75周年を
告知するデザイン
が登場予定！
楽しみです！



現在出荷されている白バラ牛乳の広
報欄は過去に撮影された写真などを
使い、レトロかつノスタルジックな雰
囲気でデザインされています。



カウイーも75周年をお祝いしています（直売所）



ズラリと並ぶ白バラ牛乳パック



生協組合員さんに牛乳配布するようす(コープらくさい店)



手書きのオリジナルワッペン(コープ山科新十条店)



大きな牛のタペストリーに興味津々



クイズでは大きく手をあげて参加してくださいました

営業所レポート

京都生協「初夏の鳥取フェア」開催 生協組合員の皆さんへ牛乳を無償配布

6月12日(土)と13日(日)の2日間、京都生協店舗にて初夏の鳥取フェアが開催されました。

本年度は新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言が発出中の開催となり、昨年同様、試飲試食を行わず先着300名にせいきょう牛乳200mlを無償配布する取り組みを行いました。

初日のコープ山科新十条店、コープらくさい店の2店舗では牛乳の配布だけでなく、生協組合員さんに鳥取フェアの開催をお知らせするとともに、牛乳月間をPRし牛乳の普及を呼びかけました。

お客様からは「いつもは違う牛乳を買っているけど、今日はせいきょう牛乳を買ってみます」といったお声もいただきました。また、コープ山科新十条店では、手書きのオリジナルワッペンで鳥取フェアを盛り上げていただきました。

9月には秋の鳥取フェアが予定されています。少しでも早く新型コロナウイルス感染症が終息に近づき秋の鳥取フェアが盛大に開催されることを願っています。

営業課レポート

小学生に牛乳や酪農を紹介 西伯小学校で出張授業を開催しました

6月18日(金)、鳥取県南部町の西伯小学校で出張授業を行いました。

この取り組みは全国学校給食習慣にあわせ行われていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で延期となった学校も多く、西伯小学校では6月の牛乳月間に開催されました。

今回は4年生2クラスを対象に、工場見学用のPRビデオを使って大山乳業農協の紹介や牛のクイズなどで、楽しく牛乳や牛の事を学ぶ授業を行いました。

児童の皆さんは職員の言葉に耳を傾けメモをとったり、クイズでは大きく手を挙げて授業を楽しんでいるようすが印象的でした。

現在も新型コロナの影響で、まだまだこのような対面での学習会が積極的に行えない状況ではありますが、感染対策を行いながら少しでも小学生に大山乳業のことや牛乳のことについて知ってもらう機会として、今後もPRを継続していきたいと思っています。

第3回 HACCP義務化

段々と暑さが厳しい季節となってきました。今年はオリンピック・パラリンピックの関係で祝日が移動しているそうです。休みのつもりで予定を組んだのに…とならないよう、皆さまお気を付けください。

さて、そんな東京オリンピック・パラリンピックの開催が実は食品業界に大きな影響を与えています。

それは「HACCPの義務化」です。「HACCP(ハサップ)」とは衛生管理方法の名前です。世界的にも広く取り入れられており、オリンピックなどで来日する世界の方々に衛生管理の見える化が出来るよう、今年6月1日に完全義務化となりました。

HACCPは、基本的な衛生管理に加え、食品をつくる工程一つ一つで、どのような危害(例えば、異物混入など)があるかを洗い出し、管理することで、出来上がる製品を安全なものにしようという方法です。最終的な製品の検査だけでなく、それまでの製造工程をしっかりと管理することに重点をおく方法で、この義務化による法改正を機に、都道府県の条例で決められていた食品衛生基準が全国一律となりました。

誰もが同じ基準で取り組むことで、消費者の方もより安心して食べていただけるようになりますね。大山乳業農協も、以前よりHACCPを取り入れた衛生管理を行い、現在はその方法を取り入れたFSSC22000という食品安全規格の認証を受けています。これからも安心、安全な製品をお届けできるよう、取り組んでいきたいと思っています。

牛乳・乳製品利用

2021年度

料理コンクール

作品集 募集

あなたならではのオリジナル作品をお待ちしています!



応募作品について オリジナルの料理・菓子・デザートとする

応募資格

- 高校生以上の一般消費者 ※調理師等料理を職としている方は除く
- 作品は未発表のオリジナル料理とする

審査基準

項目	細目	内容
普及性	料理のしやすさ、アレンジキッチン道具、材料の入手	手軽に作れる、短時間仕上げ、ちょっとした工夫で色々に対応、使用する道具・器具が一般的、全国どこでも簡単に入手
独創性	アイディアの斬新さ	料理内容の新規性、創意工夫
味覚	美味しさ	毎日食べても美味しい味、なじみやすい
利便性	牛乳・乳製品の使用	調理特性の活用
総合	全体的評価	栄養バランス、安全性、適量性、盛り付けの美しさ

選考方法

書類選考…応募の中から作品10点を選出、県大会出場者を決定
県大会…日時:2021年10月3日(日) 場所:鳥取短期大学調理実習室

2021年

8月31日

(当日消印有効)

応募などの詳しいお問合せ先

〒689-2393 鳥取県東伯郡琴浦町保37-1
鳥取県牛乳普及協会
「牛乳・乳製品利用 料理コンクール」係まで
TEL:(0858)52-2212

釣りのお供はいつも白バラ牛乳



私はよく船で釣りに出かけるのですが、いつも欠かさず船上へ持って行きます。朝日を見ながら飲む牛乳はまた格別! 皆さんも絶景を見ながらの白バラ牛乳を、ぜひ試してみてください。

私のオススメ
みなさんこんにちは。製造管理課の松田です。
私のおススメは、何といっても大山乳業の代表商品、白バラ牛乳です。

子どもの頃からずっと飲んでいて、牛乳本来の味がそのまま伝わってくるころが大好きです。汗をかくて帰った時など、よく冷えた白バラ牛乳を飲むとよみがえります。

指導課 通信

今月のトピックス

・暑熱対策プロジェクト vol.3

東伯普及所管内の暑熱対策の実施状況

東伯普及所管内における暑熱対策の実施状況

(東伯農業改良普及所 岩崎彰夫)

1. はじめに

「今年の暑さは異常だな。」という言葉が毎年繰り返される近年の夏、35度を超える猛暑日が続くのがあたりまえの気候になりました。私達も夏バテ防止を行い健康管理に努めるのが一番ですが、日々牛乳を生産してくれる牛への暑熱対策の重要性がより増してきているのは間違いありません。暑熱による経済損失を抑えるには夏の

ダメージをできるだけ小さくし、秋以降の回復を早めることが重要です。酪農家の皆さんはそれぞれの牛舎構造、飼育条件にあわせた暑熱対策に取り組んでおられると思いますが、今回は東伯普及所管内の酪農家の暑熱対策の実施状況について紹介します。

2. 管内酪農家の暑熱対策と実施状況

東伯普及所管内の酪農家戸数は令和3年4月現在で41戸(琴浦町36戸、北栄町5戸)あります。このうちフリーストール、フリーバーンの群飼牛舎が14戸(34%)、繋ぎ牛舎が27戸(66%)となっており、中小規模の繋ぎ牛舎の割合も比較的高い傾向にあります。飼養形態、牛舎の立地状況等にあわせて各農場が暑熱対策に取り組んでいます。

① 換気扇の設置

牛体への送風および牛舎内に風の流れを作り換気することは暑熱対策の基本です。数戸の小規模農場を除いて全ての農場で換気扇が設置されていました。設置密度(飼育頭数÷設置台数)の平均は全体が3.4頭/台でしたが、群飼牛舎では3.0頭/台、繋ぎ牛舎は3.7頭/台となり、群飼牛舎の設置密度が高いことがわかりました。

最も設置密度が高い農場は繋ぎ牛

舎で1.4頭/台となっており、3頭に2台という高い割合で設置されていました。送風方向は縦方向が84%、横方向が3%で縦方向が圧倒的に多い状況ですが、群飼牛舎では縦・横および横・直下の併用もみられました。また、大型型換気扇(サイクロン)も群飼牛舎3戸で導入されていました。

② 屋根の遮熱

屋根裏の温度を下げることは牛舎内の温度に大きく影響するため、屋根の遮熱も重要な対策のひとつです。屋根の遮熱対策では、2重屋根の実施は8戸(20%)。遮熱塗料の塗布は2戸(5%)、屋根散水が6戸(15%)で、未実施は26戸(63%)となり半数以上の農場が屋根の遮熱対策に取り組んでいないという結果となりました。2重屋の中には発電用のソーラーパネルを設置している2戸が含まれており、設置農家からは売電収入よりも遮熱効果の方が大きいという声も聞かれました。

③ 細霧冷房装置

ミストを噴射し気化熱によって温度を下げるのも有効な対策ですが、湿度を上げないための換気装置との連動が重要になります。設置農家は14戸(34%)で、全体の約3分の1という結果となりました。そのほかにも寒冷紗で牛舎周辺に日陰を作り、熱風の吹き込みを和らげる取組を行っている農場もみられました。アスファルトやコンクリートからの照り返しを抑える対策も重要だと思われます。現状では換気扇、屋根の遮熱、細霧冷房の3つ全ての対策に取り組んでいる農場は7戸ありました。

	全体 41戸	群飼牛舎 14戸	繋ぎ牛舎 27戸
(1) 換気扇の設置状況			
設置	37戸(90%)	14戸(100%)	23戸(85%)
未設置	4戸(10%)	0戸(0%)	4戸(15%)
設置密度(頭/台)	3.4	3.0	3.7
送風方向 (分母37戸)	縦	31戸(84%)	10戸(71%)
	横	1戸(2%)	0戸(0%)
	併用	5戸(14%)	4戸(29%)
(2) 屋根の遮熱対策			
2重屋根	8戸(20%)	1戸(7%)	7戸(26%)
遮熱塗料	2戸(5%)	0戸(0%)	2戸(7%)
屋根散水	6戸(15%)	4戸(29%)	2戸(7%)
未実施	26戸(63%)	9戸(64%)	17戸(63%)
(3) ミストの設置状況			
設置	14戸(34%)	5戸(36%)	9戸(33%)
未設置	27戸(66%)	9戸(64%)	18戸(67%)

東伯普及所管内の暑熱対策の実施状況

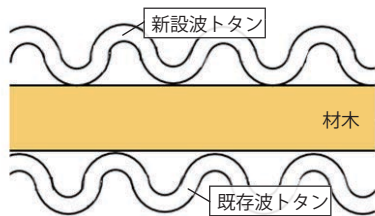
全ての農場が全ての対策をしなければならぬわけではなく、農場の構造、立地環境に合わせて必要な対策を取っていきましょう。

3. 2重屋根への改修事例

最近の傾向として管内では屋根を2重構造に改修する農場が増えていきます。屋根が古くなり補修が必要な場合は2重化することで補修に加え遮熱効果も得られるので有効な取り組みだと思われます。昨年は管内でも3農場が2重屋根への改修を行いました。それぞれが異なる材料、工法で実施しましたので紹介します。

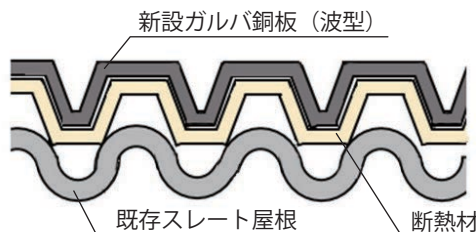
① 波トタン+材木+波トタン

既存の波トタンの上に材木を配置し、その上に新しい波トタンを貼り付けて2枚の波トタンの間に空間を持たせて断熱効果を生じさせる工法です。以前から行われている工法で材料費が安く比較的安価で行えるのが利点だと思われます。工事費込みの㎡単価は6751円/㎡となっています。



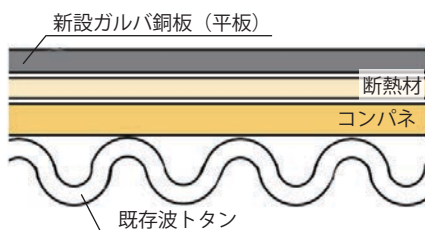
② スレート+断熱材+ガルバ鋼板

既存のスレート屋根に隙間を空けず断熱材と一体になったガルバ鋼板の屋根をかぶせる工法です。簡易な構造なので工期が短く出来るのが利点だと思われます。工事費込みの㎡単価は7208円/㎡となっています。



③ 波トタン+コンパネ+断熱材+ガルバ鋼板

既存の波トタンの上にコンパネを設置しその上に断熱材とガルバ鋼板を貼り付ける工法です。牛舎では余り行われない工法ですが、4重構造になるので遮熱効果は高いのではないかと思います。工事費込みの㎡単価は7147円/㎡となっています。



工法③改修後



工法②改修後



工法①改修後

㎡単価が最も高い②と最も安い①を600㎡の施工面積で比較すると工事費の差は274千円となり工法により改修コストに若干の差が生じました。

実際に工法による遮熱効果にどの程度差があるのか、非常に気になるところですが、今年この3農場の暑熱効果の調査を行うこととしていますので、結果については後日皆さんにお知らせしたいと思います。

これから暑熱対策に取り組もうと考えておられる農場もあると思いますが、屋根の改修も含めた牛舎の環境改善については多くの場合、補助事業の活用が可能ですので普及所・大山乳業農協指導課へご相談ください。

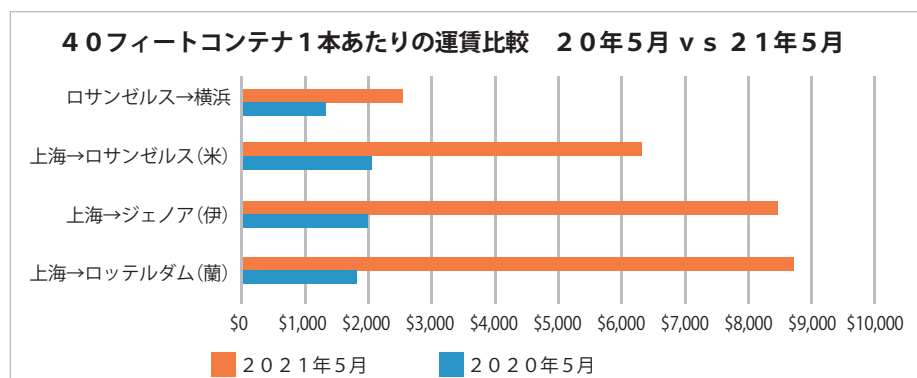
酪農家の皆さんは今一度、夏の暑熱対策が年間の生産成績に大きく影響することを強く肝に銘じて暑熱対策に取り組んでいただきたいと思います。

輸入粗飼料の情勢

品 目	今後の改定要因			特 記 事 項
	品代	為替	フレート	
アルファルファヘイ	↑	→	↑	主産地であるコロンビアベースンの1番刈の収穫は順調に進み、降雨被害は全体の30%～40%程度となっており、多くの雨当たり品が発生した20年産と比べると良好な作況となった。綺麗な緑色のスタックが多いものの、生産のほとんどがビッグベール原料となっており、全体的に乾燥気味な品質となっている。乾燥気味な品質でも成分が良ければ高値で売買されている。加えて乳価の好調な中国向けの引き合いが強いため、産地価格は上昇している。
USチモシー	→	→	↑	主産地であるワシントン州コロンビアベースンの南部では収穫期に天候に恵まれたため、多くの上級品が発生している。中部から北部にかけて6月中旬に降雨があり20%～30%程度で雨当たりが発生している。もう一つの主産地である同州エレンズバーグでも、比較的安定した天気が続いたため、良質なチモシーが収穫されている。
スーダン	↑	→	↑	インペリアルバレー灌漑局から発表された、7月1日時点の産地での作付面積は過去10年で2番目に低い作付面積となっている。産地相場は大きく上昇しており、高騰の背景としては、①21年産の作付面積が少ないこと②各輸出業者20年産からの繰り越し在庫を持っておらず、在庫率が低いこと③肥料価格が上昇したため、施肥量を減らした生産者もあり、例年に比べ単収が低いこと。などを理由に在庫を確保するため輸出業者間で旺盛に買付されていることが要因である。相場は軟化することなく、堅調に推移することが見込まれている。
カナダチモシー	→	→	↑	アルバータ州南部レスブリッジは6月下旬から1番刈の収穫が開始されている。6月下旬に熱波が襲い最高気温が35℃前後の日が続き、作況にも影響が出ている。中部クレモナでは7月中旬頃から1番刈の収穫が開始される見込みである。
オーツヘイ	→	→	↑	3月より中国向けの輸出数量が減少したため、産地の生産者はオーツヘイ相場下落を懸念し21年産はオーツヘイの作付けを避け、換金性の高い菜種や小麦、大麦への転作を増やした。地域によるが、作付けは前年比30%～60%減少していると言われており、特に西豪州で他作物への転作が多くなっている。
クレイングラス	→	→	↑	主産地インペリアルバレーでは2番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては3番刈の収穫が開始されている。全体としては1番刈に引き続き品質は良好で、柔らかく葉量の多い仕上りとなっている。産地では20年産の繰り越し在庫を持っている輸出業者もいるため、相場は安定的に推移している。

北米コンテナ船情勢

PSWでは引き続き沖合でのコンテナ本船の滞船が続いているが、現在では15～19隻前後まで減少している。一方で日本向けの本船がロサンゼルス港の次に経由地として寄港するカルフォルニア州オークランド港の混雑が顕在化している。PSWの混雑を避けるため、今年に入り各船社オークランド港への本船寄港を増やしたことが要因と考えられ、現在20隻前後のコンテナ本船が沖合に滞船している。オークランド港はコンテナターミナルが少なく、荷役能力が劣るため、日本向け本船の



各航路別5月のコンテナ運賃比較 データ元：日本海事センター企画研究部

スケジュールが再度遅延し始めている。また中国において空コンテナ不足が6月より深刻化している。未だに世界的な海運の混雑が続くなか、中国からの輸出は夏場からクリスマスシーズンにかけて繁忙期を迎える。中国から世界各国へのコンテナ運賃は引き続き上昇しており、今後も北米からの空コンテナ回漕を助長すると考えられ、引き続き日本向け船腹確保の状況には注視する必要がある。



大山乳業農業協同組合 からののお知らせ

D a i n y u I n f o r m a t i o n

理事会だより

理事会にて次の議案が決議されました

6月21日提出議案

- | | |
|-------|---------------------|
| 第1号議案 | 四半期監事監査指摘に対する回答について |
| 第2号議案 | 5月末経営検討について |
| 第3号議案 | 飼料倉庫について |
| 第4号議案 | 固定資産の取得について |
| 第5号議案 | 各種規程の設定・一部変更について |
| 第6号議案 | 夏季一時金について |

異動辞令等

下記の通り異動辞令が発令されました

異動辞令(令和3年7月1日付)

(所属及び役職) (氏名) (旧所属及び役職)

出向

公益財団法人
鳥取県畜産振興協会 霜村 織衣 物流課職員

販売部

物流課職員 米田 優南 市乳課職員

第23回大山まきば祭 中止のお知らせ

今秋予定しておりました「第23回大山まきば祭」につきまして、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、感染予防の対策が困難であると判断し開催中止といたしました。

開催を楽しみにしておられた皆様には大変申し訳ありませんが、何卒ご理解いただきますようお願い致します。

直売所カウイーのみるく館からののお知らせ

今月のみるく館お買い得情報!

創立75周年
ありがとうフェア開催!
7月21日(水)~8月5日(木)
期間中だけの特別セット
乳飲料や人気のお菓子を詰め込んだ
75周年ありがとうセット
税込 **750円**



今年の年末まで使える!
ソフトクリーム
回数券販売
数量限定100枚
6枚1綴り:1800円(税込)
1個あたり **50円** お得

販売日7月21日(水)~7月25日(日)
売り切れ次第販売終了となります

8月7日は
バナナの日
白バラバナナオ・レ 30% OFF
500ml 1000ml

ホームページ からの声



■ コクがあって大好きです。パッケージも可愛くて、娘が「これ美味しいのだよねー」と、すぐ気づいてくれます。(福岡県)

■ 結婚し、以前牛乳を配達してもらっていたので機会があったので頼む事に決めました。牛のマークも超かわいくて好きです。(広島県)

■ 関西に住んでいる娘から言わせると、白バラ牛乳は関西では高級品だそうです。そんな牛乳を給食で頂いている私たちは幸せだと思います。(鳥取県)

■ 生まれて初めて白バラ製品をいただきました。埼玉県にも販売を広げて欲しいと切に願っています。白バラファンになりました。(埼玉県)

■ なかなか鳥取に帰ることができず、白バラが恋しくなると、調べていたところネット通販を見つけて、大喜びしました。鳥取の誇れる大山乳業を変わず愛しています!(大阪府)

■ 看護師をしています。二交代勤務の長い夜勤の朝食にいつも飲んでます。美味しさと、やっと朝だ!という安心感と一瞬の安らぎを味わっています。(鳥取県)

■ 忘れられないお味をほんとにありがとうございます!祖母との記憶も同時に思い出し、幸せな気分になります。ありがとうございます。(京都府)

白バラ牛乳月間企画 フォトコンテストの受賞作品が決まりました！

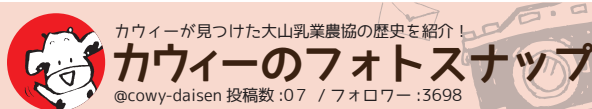


大山乳業農協では、6月の牛乳月間に合わせ、インスタグラムでフォトコンテストを開催しました。

今回は期間中113点の応募があり、その中からグランプリ1点と準グランプリ3点が選ばれました。

応募作品は白バラ製品を美味しく飲む姿や、日常のワンシーンなど工夫を凝らした個性が光る作品が多く見受けられました。

大山乳業農協では、今後お客様参加型の企画を開催し、より白バラ製品に親しんで頂ける取り組みを発信し続けたいと思います。(写真は準グランプリ作品。グランプリ作品は今月号の表紙に掲載)



今年の7月21日は、大山乳業農協にとって、とーっても大切な「創立75周年記念日」なんだよ！大山乳業のツイッターで情報発信しているしずくちゃんと白バラの花をイメージしたアニバーサリーケーキでお祝いだね！

酪農だよりに関するご意見ご感想は大山乳業農協
お問合せフォームからお寄せください
QRコードからもメールアドレスを取得できます▶



酪農だより vol.714

発行責任者／小前孝夫 編集責任者／平野 浩
印刷所／山本印刷株式会社 発行日／令和3年7月20日

AED救命講習会で職員40名が 応急対応の手順を学びました

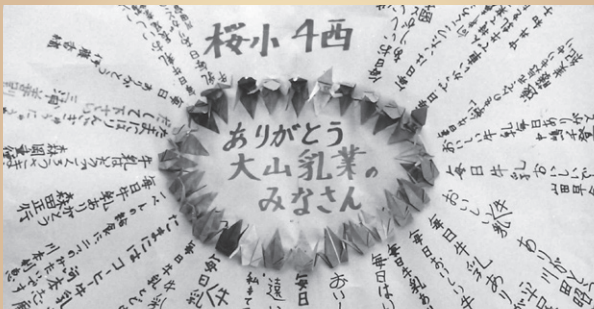


7月1日、琴浦消防署より松本さんと小林さんを講師としてお招きし、管理職を中心としたAED救命講習会を実施いたしました。会場は第1工場側と総務事務所棟側に分かれ、総勢40名が参加しました。講師からの説明の後、ダミー人形とAEDのデモ機を使用して、二人一組で応急対応の手順を確認し、一人は心臓マッサージ、もう一人はAEDの操作を行い、応急措置の実技練習をしました。

コロナ禍において、人口呼吸は臨機応変の対応になりますが、どんな状況下でも人命救助を第一優先に考えて、行動をとることを学ぶことができ、緊急事態をイメージしたとても有意義な救命講習会となりました。

あの日・あの時

大山乳業「酪農だより」バックナンバーから当時の様子を覗いてみます



今回紹介するのは、昭和51年2月20日発行の「酪農だより第169号」より小学生から贈られた寄せ書きです。当時小学生だった皆さんが大人になり、今でも白バラ牛乳を飲んでおられると嬉しく思います。

編集後記

大山乳業農協は今年75周年記念日を迎えました。積み重ねてきた歴史と新たに刻まれる歴史のどちらも大切に、創立80年、90年、100年、と変わらず地域やお客様に愛されるよう盛り上げていきましょう。



大山乳業農業協同組合

〒689-2393 鳥取県東伯郡琴浦町保37-1
TEL.0858-52-2211(代) FAX.0858-53-1501
<https://dainyu.or.jp> E-mail:email@dainyu.or.jp